

第191回 番組審議会

1. 日 時 平成22年4月13日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 13名
出席委員数 11名 (欠席委員数 2名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)
椎井 一意 (副委員長)
—以下50音順—
久慈 浩介
斎藤 純
菅原 正二
中川 真
中原 祥皓
村上 幸子
八木橋 伸之
役重 真喜子
吉田 浩次

○ 会社側出席者 (6名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)
小原 忍 (専務取締役)
藤澤 利憲 (常務取締役)
前田 秀男 (取締役編成技術局長)
田山 裕明 (編成技術局次長兼編成部長)
鎌田 淑子 (めんこいエンタープライズ 制作部 主任)

○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題 「帰ってきたアニキーツ! 二夜連続! 卒業SP!!! 前編・後編」

平成22年3月5日(木)・6日(金) 25:05～26:05 放送

5. 議 事 概 要

今回は「帰ってきたアニキーツ! 二夜連続! 卒業SP!!! 前編・後編」について審議しました。

出席した委員からは「岩手にも頑張っている若者がたくさんいることを見て励まされた」「過去の相談者のその後がVTRで紹介され良かった」「知事と話す機会がない若者たちにとっては非常に良い機会になった」「続編を作ってほしい」などの意見がありました。

また、一方で「若者向けということで深夜に放送したのかもれないが、もっとたくさんの人に見てもらえる時間帯の方が良かった」「スタッフの姿が映っていたが気になった」「最後のNG集は必要がないと感じた」などの意見がありました。

6. 議 事

○事 務 局

ただいまより第191回番組審議会を開催いたします。

本日まで出席の委員は11名、ご欠席は、斎藤雅博委員、東海林委員の2名です。

それでは中村委員長、お願いいたします。

○中村委員長

では、議事に入ります。

議題は、3月5日と6日に放送されました「帰ってきたアニキーツ! 二夜連続! 卒業SP!!! 前編・後編」です。田山さんと鎌田さんから、今回の番組の背景などについて説明をお願いします。

○田山プロデューサー

私からは、今回の番組のコンセプトと概要について説明させていただきます。当初はこの番組に「帰ってきた」という言葉はついていませんでした。単に「アニキーツ!」という番組名で3年前の平成19年2月に第一回の放送をしています。毎週木曜日に深夜24時45分から30分番組、6回シリーズで放送しました。

番組を作るきっかけは「今の岩手の若者は元気がない。もっと地元のテレビ局として若者が元気になる番組を作るべきだ」ということから始まりました。若者たちはいろいろと悩んでいる。だから悩みを聞いて励ますことはできないのだろうか。大人が分かった顔をしてアドバイスをしても若者の心には届かない。少し年上のアニキのような人が真剣に話を聞いて、自分の言葉で話をすれば悩める若者や視聴者の心に響くのではないか。出演する兄貴は悩みを抱えていながらも、前向きに社会と向き合っていて頑張っている人がいい、ということで、番組の骨格が固まり、悩める若者の心を映すという演出を意識して番組は始まりました。視聴率については2回分が調査週に入り、結果は深夜にもかかわらず3.3%と4.1%で、いずれも占拠率は20%を超え、大きな反響がありました。

6回シリーズが好評だったため、55分の単発番組として復活したのが今回の「**帰ってきたアニキーツ!**」で、**年末や年度末に不定期に放送されております**。基本コンセプトは当初の「アニキーツ!」を継続しており、司会もふじポンとライブハウス「盛岡クラブチェンジ」代表の黒沼さんの2人は当初から変わっていません。収録場所や設定は変わっておりますが、今回の達増知事アニキについても、就職や進路、不安や疑問をもつ若者とアニキたちが話し合っ、社会人としてのパワーをつけてもらうというコンセプトは守っています。悩んでいるのは自分たちだけではない。考えがけっして内向きにならないでしっかりと前を向いて進んでいこうという気持ちを応援するという意図も変わっていません。現在では数少ないめんこいテレビのオリジナルコンテンツのひとつとして認識されるまで番組が成長しました。

本日はよろしくお願い致します。

○鎌田ディレクター

私からは制作的な視点で説明させていただきます。「卒業SP」というサブタイトルについては、私が担当する前に既に決まっておりました。そこで「卒業SP」に合ったものということで、合唱と応援団を演出として入れました。収録場所となった岩手大学の農業教育資料館も演出のひとつです。「農」は人が生きていくための「源」ということで、農業教育資料館は新たな一步を踏み出すステージに相応しいと思い、決めました。

一番苦労したのは相談者です。番組の出来、不出来を左右する大きなキーポイントでした。番組のテーマに相応しい候補は他にも居りましたが、岩手県側との打ち合わせの中で、県の今年度の長期計画の紹介と相談内容を結び付けなくてはならなかったなど、いろいろと調整した結果の出演者となっています。そういったことが、結果的に討論の薄さにあらわれたの

ではないかと反省しています。

番組の制作にあたって、誰のために、何のために番組を作るのかを考えた際、私はやはり相談者のために番組を作るべきだと思いました。1時間ちょつとの間で人生の悩みを解決するなどと言うことは、もちろん叶わないことだと思いますが、番組の中で自分の思いを話す機会は滅多に無い事だと思いますし、それが良い思い出となって、少しでも相談者の役に立てたらという思いで作りました。視聴者の皆さんに対しても、自分の気持ちを誰かに伝えて相談することの意義をもう一度考えてほしいという思いで制作にあたりました。

○中村委員長

それでは中川委員、お願いします。

○中川委員

一番感じたことは、若い人が岩手県で普通に生きて行く事が、けっこうしんどいのだな、ということが実感できました。大船渡でネットで海産物を扱っている方とか、北限の海女の方などは突き抜けている方たちで、質問者のお二人はそういうものを目指しているのではないのだろうと思います。普通の暮らしだけれど、もう少し満足できるような岩手での生き方を探しているのだろうと思います。番組に出演された皆さんはそういったことを分かって討論していたのだろうと思いますが、なかなか難しいということが印象に残りました。普通の人が岩手に残っていくことを、どのようにサポートしていけばいいのか？番組の中では解決策が出て来なかったもので、今後も継続的に見ていかななくてはならないテーマだと思いました。

私は初めてこの番組を見たのですが、討議に参加されている人たちがだんだん熱くなって語るようになる様子が面白いと思いました。

知事がどのような話しをするのかも注目していました。もう少しぎっくばらんな話しを、司会のふじポンなどが知事から引き出すような演出があっても良かったのではないのでしょうか。知事による県の政策の紹介がありましたが、そうしたことは司会者が話しをして、知事にはご自身の失敗談も含めて、若い頃の話しをしてもらった方が面白かったと思います。

岩手県の若者だけが集った討論を見る機会がなかったので、自分としては大変勉強になりました。

○中村委員長

齋藤純委員をお願いします。

○齋藤純委員

長い番組でしたが、その長さを感じることなく見る事が出来ました。

知事が出演することで大変だったと思います。コメントの事前チェックや放送前のチェックのようなことがあったのではないかと思います。そのような報道管制のようなことを役所にやらせてはいけないと思います。知事も自由に言いたいことが言えなかったのでは、と思いつながら番組を見ました。制作された方はご苦労されたと思います。

黒沼さんがクールなコメントをして、ふじポンが県の広報担当者のような役割を果たしていました。個人的には、ふじポンはうるさくて好きではありませんが、若い人たちにとってもいい感じの番組だったと思いました。

番組に出ていた高校生や20歳前後の人たちのコメントを聞いて、自分が20歳位の頃を振り返って「穴があったら入りたい」と思うほどイイ出演者たちでした。自分のことが情けなく思うほど凄いな、と思いました。顕著に違うこととして、僕らが若かった頃には地元志向はありませんでした。今の若い人たちは、地元で何かをやりたいという気持ちが凄く強いということを感じました。

番組の作りについてですが、一回目の終わりでNG集をやりましたが、あれはテレビを駄目にした元凶だと思います。NGを見せることは本来あってはいけないことです。あのような恥ずかしいことをローカル局まで真似することはないと思います。

○中村委員長

菅原委員をお願いします。

○菅原委員

会場になったホールは素晴らしいところでした。会場はとても良かったのですが、照明はもう少しソフトな方が良かったと思います。テレビの照明はいつもきついので、ホールに合った照明にして欲しいと思いました。広さに対するテーブルなどの配置も気になりました。

18歳の酪農家の少年は、しっかりしたい顔をしていました。やる気を感じました。地元で人がいないということで、将来に不安を持っているということでしたが、25ヘクタールに70頭の牛がいるというのは財産です。先行きは明るいと思います。何も心配はいりません。

質問者の二人ともやれると思います。短期的にみれば過疎の問題とかありますが、あと何十年かすると岩手の時代が来ると私は希望的な見方をしています。人がいないとか、悲観的な見方ばかりしてはいけないと思います。

みんなで言い合うという番組は他にはないですし、知事の出演もあって、とても良い番組だと思います。

○中村委員長

八木橋委員、お願いします。

○八木橋委員

総体的に見て、前半は酪農という1本の柱があって分かりやすく良かったと思います。後半は相談者が何をしたいのか分からないというようなことがあって、前半の方が面白かったと思います。

テーマ自体は非常に深刻な問題ですが、若い人たちがフリーでトークするといことは面白みがありました。テーマがテーマだけに、知事も本当は言いたい事があったと思いますが、規制のようなものがあって言えなかったような、ギャップのような感じました。

個別的に見ると、前半は後継者難がテーマでした。県も担い手に関する政策をやっていますが、農業に関しては難しい問題が山積しています。この問題を語ると百家騒鳴の状態になるので、知事も話しづらかったとは思いますが、番組でも話題が出ましたが農家の嫁不足も非常に難しい問題です。現場を見ると一筋縄ではいかない問題ばかりですが、番組を通じて若者が自分たちのやりたいことを自由に話し合うことには、それなりの良さがあったと思います。

知事が最後に言った「将来、サラリーマンは駄目になるだろう」ということに関して言えば、資産がある農家は有望かもしれません。前提として2025年には1億2000万人の人口が1億になるという説もあります。8000万人、6000万人という説もあります。6000万人になれば岩手も有望な場所になるという気がします。ある意味で非常に深刻な問題なのですが、それを若者らしく話すということに、それなりの楽しさがあると思いました。

18歳の少年はいい顔をしていると思いました。質問者の選定が良かったと思います。

ふじポンが「酪農に未来はあるか、農業に未来はあるか」というような括り方をしていましたが、そうすると農業政策の大問題になってしまい、あのような括り方は大き過ぎたよう

な気がします。例えば酪農にどう取り組むか？とか、牛は100頭なのか1000頭なのか？とか、もう少し絞り込んだ方が分かりやすかったと思います。

後半の質問者については、あの人は何をやりたいのかわかりませんでした。もがいているのか、贅沢を言っているのか、その辺が伝わってきませんでした。

むしろVTRで紹介された久慈の“かわいすぎる海女”さんの「他の所を知らないからずっと久慈にいたい！平凡な生活がいい」などと言っていることに私は感心しました。自殺防止の問題について以前相談した人も紹介されていましたが、「浜ある山ある街ある、その中で自分で遊び方を見つければイイ」というコメントを聞いて、この人はそんなところを悟ったのだなということが伝わってきました。いずれ後半は挿入VTRの方が面白かったと思います。

全体として、フリートークは現実の問題とかけ離れた部分とか、知事の制約はあったかもしれないですが、出演者の本音を聞く事ができて面白かったという感じです。

○中村委員長

中原委員お願いします

○中原委員

今回の番組は長いなど見始めには思いましたが、だんだんと引き込まれて最後まで見ることができました。

なぜ、岩手大学の農業教育資料館を会場にしたのか？ 附属中学の合唱はどんな意味があるのか？ なぜ、知事が出てきたのか？とか疑問がありましたが、鎌田ディレクターの説明で分かりました。

知事については、私も県のスタッフの検閲のようなものがあることは承知していますが、県政PRでもするのかと思って見ていたら、案外そのようなことも少なく、だんだんと知事も自然体になって打ち解けて話しをしていたので、こういうことであれば知事が出演して、大いに話しをしても良いのではないかと思いました。

知事は「芸術、文化に力を入れている」と言っていましたが、参加者は「広域文化芸術ネットワーク」については一人も知りませんでした。県政として制度を作るだけで、知って貰いたい参加者が誰一人知らなかったということですから、県に反省してもらいたいという材料提供という意味で、非常に面白かったです。

もうひとつ良かったことは、相談者のその後の紹介があったことで、番組は相談者のその後も生かしているなと思いました。

ふじポンさんの評価は両極端の面があると思います。この番組に関して言うと、始めの頃に比べると成長したという印象を持ちましたし、今後が楽しみだなと感じました。

まずいなと思った点はNG集です。斉藤純委員も仰っていましたが、NG集は不要であると思います。あとは、取材陣が画面に映らないように気をつけてほしい。会場全体を映しているシーンで、スタッフがうろうろしているところが画面に見えるのは、散漫で目障りでした。

相談する方の悩みが討論が始まって突然出てくるよりも、討論の前にコンパクトにまとめて紹介してもらおうと、困っている内容がもっと分かりやすかったと思います。

若者たちの悩みに対する答えを、それぞれの回答者が出してくれました。私から見ると「甘い」と思う意見もありましたが、それぞれの人生経験から出た言葉なので、それなりに説得力がありました。それらの回答をどう考えるかは、番組を見た人が解釈すべきなのだと思います。そういった意味では、どういう人を回答者に選ぶかということが相当のウェイトを占めるのではないかと思います。女性の社長さんの話しはそれなりに重みがあって、私も参考になった意見がありました。

番組全体を振り返ってみて、なかなかいい番組だったと思います。番組内容を考えると、1時間番組という設定も適切でした。深夜の放送という時間帯の問題もありますが、この番組には今後も期待したいと思います。

○中村委員長

村上委員お願いします。

○村上委員

鎌田ディレクターの説明を聞いて、状況が理解できました。いろいろな制約がある中での苦勞があったと思います。最初は「卒業SP」がどういうコンセプトなのかと思って見ていました。「悩みから卒業した新たな一歩」というコメントが番組の中で何回かあって理解できました。その演出としての「学び舎」「合唱」「応援団」というアイデアに流石だなと思いました。

最初の、広い会場のドアが開いて知事が登場といった演出にも期待感が持てました。

重いテーマではありますが、岩手の抱えている問題について、若者の回答者が当事者として、また同じ郷土に住む先輩として、どのように答えていくのか興味がありました。時間が経つにつれて場も打ち解けて皆の肩の力が抜け、出演者のアネキ・アニキのそれぞれの経験に基いた意見やアドバイスは、大人の私にも響いてくるものがありました。質問者の大地君も番組では固まった表情をずっとしていましたが、後で思い返せばきっと心に残る、今後の生き方に直結するような経験になったと思います。

県立大学の学生のゆうと君は非常にクールなのですが、「今、大変じゃない仕事なんてない！」という彼の言葉が非常に印象に残りました。突き放す訳でもなく、クールな彼の表情の中に「ガンバレ」というものを感じました。北上川の自然学校をやっている方なども、地域を巻き込んでやっているパワーを感じました。大地君はそういった回答者のパワーを貰って帰ることができたのではないかと思います。確かに酪農は過酷な仕事かもしれませんが、少しずつ若い酪農家や農業生産者が増えてきているそうなので、その点に期待を感じます。

後半の質問者である久慈のはなさんのような若い層は、凄く多いと思います。「やりたいことがあるが、外に出たくない」ということでしたが、回答者のみちこさんは「外に出た方がいいわよ」とアドバイスしていました。本当の部分がどんどん出てきて、とても良かったと思います。

相談者の1年後を紹介する「卒業生」や、頑張っているアニキ・アネキを取り上げた「アニキの殿堂」「アネキの殿堂」などのVTR挿入の部分は、非常に面白かったです。

最後に「今の岩手は」ということをボードに書いてもらう演出がありました。黒沼さんが「地味」と書きました。「これから」「種まき」など似たようなコンセプトで今の岩手について語っていました。20代の若者がそのように思っているという事が興味深かったです。達増知事は「炭火」と書かれていましたが、大きく燃えるのではなく遠赤外線のようなのが岩手だと言われて、面白いと思いました。悲観とか暗くなるのではなく、岩手の風土や故郷に対する想いなのでしょう。思っていることはボードに書いてあるとおりなのでしょうけれど、若者たちの内に秘めた熱いものも感じました。

1時間の番組が2回ということで、長い番組でしたが、だんだんと引き込まれて見てしまいました。

○中村委員長

役重委員、お願いします。

○ 役重委員

気になったことを2つお話したいと思います。冒頭の中学生の合唱と農業教育資料館の説明がありました。あれは非常に聞きづらかったです。耳で聞く合唱があつて、そこにふじポンの声がかぶって、さらに映像は農業資料館、テロップはまた別のことで、さらに番組の説明があつてと情報過多でした。4系統から5系統の情報がありましたが、2系統が限界だと思います。私は合唱が好きなのですが、殆どふじポンの声にかき消されていました。もうひとつは、照明がきつかったことです。演出で意図的にやったのかもしれませんが、違和感がありました。

全体的なイメージは、じっくり見ていくといいと思います。今の若者は？という論調の中で「若い人たちの中でも頑張っている人がいる。しっかり生き方を持っている人がいるはずだ、いてほしい。」と思いながらも、実生活ではそうした若い人たちと接する機会がありません。番組でそうした若者たちを知ることができて良かったと思います。

ただし1時間見続けるのは辛いです。一般の視聴者は見る事が出来ないと思います。一生懸命、工夫しているのはわかりましたが、辛かったです。どうしたらいいのか？考えながら見ていました。ひとつは知事は出さなくてはいけなかったのでしょうか？あのような場所には向かない方だと思います。すごく真面目で、ジェントルマンで、良い方なのですが、言葉の力、アピール、パフォーマンスということには弱い方です。相談している二人の若者は農業政策とか文化芸術振興基本条例とか、そのようなもので悩みを解決されたいし、そんなものを求めています。

なぜ、迷っているかという、前に行きたくて迷っている。背中を押すのは政策ではなく「人」、「迷ってないで一緒にやるべ」のように押してくれる一言。農家の方でも頑張っている方「言葉」や「人生」、「哲学」をもっている方がいらっしゃるので、そうした方にアニキ役になってもらって、一言言っていただいた方が良いと思います。

農業の後継者不足、嫁不足などの「暗い」ことは、何十年も前から言われています。「暗さ」に新鮮さがないというか、既視感というか、それを番組で滔々とやられるのはつらいです。話題の取り上げ方に疑問がありました。

その点で、私は後半のはなちゃんの方に共感がありました。やりたいことがあつて地元に行きたいが仕事がない。若者がもっている悩みです。東京にいけば何かあるのではないかとするのはその部分なのです。番組として切り込んで行く話題の方向としては、良かったと思

います。

会場にいるアニキ・アネキたちがお客さんになってしまっていました。なぜかという、ふじポンが司会をしているからです。どんなに面白い意見を持っていても、司会進行が仕切ると綺麗にまとまってしまいます。もうすこし、アネキ・アニキの人たちに進行を任せてしまっても良かったのではないかと思います。アニキ・アネキに相談するという設定なのに、アニキ・アネキは相談者と直接会話をしていませんでした。常に司会を通じて会話があるというところが、ちょっともどかしい部分でした。うまく言えないのですが、アニキ・アネキの中でも力のあるキーパーソンを決めて、盛り上げを図った方が良かったように思いました。

「帰ってきた」コーナーではいろいろな方が登場しましたが、圧倒的にアニキよりもアネキの方が凄かったと思います。海女さんにしてもお店をやっている女性もすごくしっかりしていました。一方でバイク大会とかラッパーとか、ちょっとアニキの方が幼いかな、という印象でした。女性は、今後も頼もしいアネキとして番組に出ていただけたと思います。

この番組は進化、改善しながら頑張っていてほしいと思います。

○中村委員長

久慈委員お願いします。

○久慈委員

今回の番組、「アニキーツ！」は一番最初の時は、めんこいテレビの物置のような所でやっていた。あれこそが「アニキーツ！」です。知事が出ているこの番組は、25時に放送するのではなく、19時ごろに放送する「お兄様」です。内容も県の政策などいろいろなものが出てきました。

でも、僕は知事を出すのは大賛成です。知事にもう少し崩れてほしい。もっと似合わないサングラスやTシャツで来てほしいのです。そのぐらいやって「アニキ」になると思います。黒沼さんが毒を殺がれている感じがしました。ふじポンに突っ込める人がいないと「お兄様」なってしまいます。知事を出演させるならばもっと何かやり方を考えた方が良かったと思って見ていました。

今回は会場も「お兄様」でしたし、出演者の距離感も「お兄様」でした。最初の頃の物置のような所の距離間こそ25時放送の「アニキーツ！」でした。次は知事をめんこいテレビの物置に呼んでください。そこで話しをしてもらいましょう。知事は変わらないでしょうから、

変わりに知事に突っ込める人を用意しておけばいいのです。それには、私は斎藤純委員がいいと思います。

私は「アニキーッ！」が大好きなので出来ることなら続けて欲しいと思います。1時間2本ならば30分4回の方が良かったかな？というのが私の感想です。

「帰ってきた」ということで、前に出演した人たちを呼んできたのも良いアイデアでした。私が最高にシュールだと思ったことは、最後のロールでした。スタッフの卒業したいことを書いていました。博報堂の人の「油」とか、「甘いもの」とか書いてありましたが、最高に良かったです。それが最初に出ていたらもっと良かった。そういうところが「アニキーッ！」なんだなと思いました。

知事を出すのもいいですが、4回番組をやるとして、その中の1回を知事に出ていただくとか？その辺は是非考えてやっていただきたい。私は大好きな番組なのでぜひ続けてください。そして、私にも声を掛けて下さい。思いっきり突っ込んでいきたいと思います。

○中村委員長

吉田委員お願いします。

○吉田委員

まずお聞きしたかったのは、制作に当たって真夜中に時間設定したのは狙いがあったことですか？

○田山プロデューサー

最初からの狙いでした。セットも深夜番組を意識しております。

○吉田委員

分かりました。今回の番組も若い人しか見ていなかったと思います。このような真夜中の放送では、お年寄りほとんど見ていないと思います。

知事さんが登場していたということについては、意見が分かれるところだと思います。若者たちが直接知事と話しをする機会がめったにありません。これは大変大きなことだという良い部分と、知事の立場もあるのであまりくだけた適当な話しも出来ないと思いました。どうしても形にはまった行政上のことにならざるをえないという「硬さ」がありました。声の

キーの高いふじポンさんが、その硬さを若干和らげてくれたという良い部分もありましたが、「硬さ」が気になりました。

全体の構成の中で葛巻の酪農と久慈の挿絵の大きな柱がありました。酪農の問題については、議論の中味を見たときに、酪農の過酷な現実からかなりかけ離れている話だと感じました。もっと今の酪農の現実を、まざまざと見せてもらいたかったと思います。

暗い部分だけではなく、雄大な自然の中で仕事をしているという、いい部分もかなりあると思います。暗い部分と明るい部分をうまく織り交ぜながら映し出してくれたならば良かったと思います。

大変良かった点は、今の就職難の時代には「アニキーツ！」という番組設定がぴったりしていたことです。タイトル設定も素晴らしいと思います。もっともっとこれからも頑張りたい。岩手県内にも若者の方で30代でもかなり成功されている方がいます。本当は相談者の人たちに対して、実際に成功している人たちが直接その場に来て、生の声で体験者が話した方が重みがあると思います。そうした場合に久慈委員などが出演すると生きてくると思います。ぜひ成功者の生の声をたくさん届けて下さい。

印象に残ったのは岩手大学の農業教育資料館です。初めて見ましたがとても立派だと思いました。久慈の海女さんも話には聞いていましたが初めて見ました。奇麗でした。非常に印象的でした。

この番組は、ぜひ昼の時間帯にも再放送をしていただきたいと思います。

○中村委員長

椎井委員お願いします。

○椎井副委員長

私も普段ならこのような深夜の放送は辛くて見られないと思います。若者に見てもらいたい番組として作られたと思いますが、そのためにいろいろな工夫をされて番組構成をされたことはわかります。そのためか、肝心の討論の部分が非常に物足りなかったと感じました。番組の最後でこの番組のメッセージが何だろう？と思いました。元気さはあるけれども、それに埋没して何を言いたいのかが私には明確には伝わってきませんでした。先ほど、田山さんから説明がありましたので、何を伝えたいのかが分かりました。若い人たちに伝えたいからこういった作りになったのかな、とは思いますが。

印象に残ったことは、卒業者のアニキ・アネキからのメッセージが大変良かったことです。壁を突き破って自分の目標に向かってチャレンジしている人の目は非常に輝いていて、その行動も自信に満ちていたような感じがしました。人間はひとつの壁を乗り越えると大きく成長します。私は役重委員の感想とは正反対で、久慈のバイクのお兄ちゃんが非常に印象に残りました。いろいろな悩みはありましたが、地域、郷土に愛着をもって頑張っている姿は頼もしいと感じました。

若い人たちが岩手をどう思っているのか一言書いてもらうところがありました。出演者からは「これから」とか「さなぎ」「地味」「種まき」という言葉が出てきました。実に岩手のことをよく見ているなという印象を受けました。これは岩手のことではなくて自分自身のことを見つめているのではないかと思いました。自分のことを岩手に当てはめて考えているのかなと思いました。

知事の「炭火」という話しも非常にいい言葉だと思いました。「炭火」を煽ってあげるとか、若者の内に秘めた思いを外に出してやるのがアニキ、また我々大人の非常に大きな役割だと思えます。

不満は県の広報番組のようなことです。なぜ県の長期計画などが知事の口から出てくるのか？なぜ農業教育資料館でやるのかが不思議でした。

大変疲れましたが楽しかったです。

○中村委員長

前の番組を見ておられる委員の方々とは違って、私はこの番組を初めて見ました。初めて見た者として感想を述べたいと思います。合計2時間の番組ということで「大変だ」という思いがありました。司会の女の子のうるさいことに「これに付き合わされるのか」と思って嫌だと思いました。中村大地君の素朴さと、周りの回答者がいいコメントをたくさん言っていたのでだんだんと引きつけられました。

全体としていい番組だと思いました。これは夜中に若者だけが見るというのはもったいない。編集を変えて昼間に大人にも岩手の若者が何を考えているかを見てもらえたらいいと思いました。岩手の子供達の純朴さが最初になじみ出たので、これはいいなと思いました。子供達が素直に育っていけばいいなと思いました。特に外に出て武者修行をしてから帰って来たいという話しがありました。岩手の中にとどまれという話しもありますが、若いうちはどんどん外にでて武者修行をして、いいものを外から吸収して持ち帰って来て、岩手を良く

する方向で頑張っしてほしいと思います。最初の質問者の大地君の物静かな話し方の中にも、そうした気持ちがちにじみ出ていて、大変いいなと思って見ていました。

後編の質問者の方の、絵を描いて楽しく過ごしたい、それで少し仕事が出来ればいいという気持ちも分かりますが、一体自分の絵がどのようなレベルにあるのか？どう認識しているのか？という事がよくわかりませんでした。そうだとしたら外に出てきちんと評価してもらって、足りないなら勉強してプロになる気概がほしいと思います。地域性もあると思いますが、全体に甘えが岩手の若者の一面にはあるのか？と思いました。

県の振興策の中で「芸術をやりたい子を押し上げるような施策があるよ」と知事が言ってくれば良かったのですが、言ってくれなかったことに物足りなさを感じました。

知事は若者と話すのが好きです。常日頃、大学に来て若い人と話しをすることを喜びます。若い人にとっても、番組を通じて知事と話しができたことは、非常に大きな励みにもなったと思います。こうした機会をもっと作って、知事の殻を破っていただいて、いろいろな話を引き出してもらえれば、もっとこの番組の意味が出てくるという感じがしました。

私は前編と後編を逆にした方が良かったと思います。前編が後ろの方が、岩手の若者がもっと前に出て頑張っ、やがて戻って何かやってくれそうだ、というような演出も出来たと思います。

気になったのは最初の出だしと、最後の閉じ方に締まりがなかったことです。司会者のプライベートな発言が唐突に出てきたり、若者に迎合し過ぎていたのではないのでしょうか。

CMの前後に出てきた絵は面白くて、次に上手くつながっていました。全体として、いい番組でした。

これから岩手の若者の声をどんどん引き出して、これからの岩手はどうあるべきか？というようにことにもヒントを与えてくれる番組にして欲しいと思います。

最後は大人の責任です。行政から我々まで、若者をどのようにバックアップしていくか？ということだと思います。そういった意味で、大人にもこの番組を見て欲しいという印象を持ちました。

それでは、欠席委員からのレポートがあれば事務局から報告をお願いします。

○事務局

斎藤雅博委員からのレポートです。

「帰ってきたアニキーッ！」は確か3年ほど前にも「就職や進路についての若者真剣討論番

組」として当番組審議会の議題になったと記憶しています。その時の私の意見・感想はどちらかと言えばあまり高い評価をしていなかったように思いますが、今回は内容、構成とも数段良くなっている感じがしました。

構成面で岩手大学附属小学校の生徒による合唱のオープニング、そして、会場が「農業教育資料館」という歴史的建造物というのも雰囲気があって良かった。また、ところどころに先輩「アニキ・アネキ」を登場させ、“生きざま”というか生き方なり考えを伝えていたのは、若者視聴者には参考になったのではないかと思う。特に前回は相談者で登場した久慈の船渡さんをフォローしたのが非常に良かったし、大地君に対する盛岡農高応援団のエールは「卒業SP」にふさわしかったと思う。

そして、何よりも知事の適時適切なアドバイスが番組を守り立てていたように感じました。討論での話しぶりやふじポンが知事室を訪れ、はなさんからの絵を飾っている様子、面白い電話機などを説明する知事の姿は、日頃の記者会見や公的な会議における知事より「素」に近い感じで、少し身近に感じた人も多かったのではないのでしょうか。

また、若者向けを意識し、用語や政策の解説を字幕で多く用いたのは理解を助けるという意味で大変効果的でした。

内容的にも、相談者に対しそれぞれの立場というか、現状から様々な意見を述べていたが、貴重なアドバイスになったと思う。パネラーに余り堅苦しい職業の人がいなかったのも素直に受け入れられる要素だったように思う。

大地君については農場で働く姿を映像化することにより思いの強さを感じたし、話ぶりから素朴さ純真さが伝わってきて、頑張っ！と思わずにはいられなかった。こういう人材が地元に戻るようにならなければならないと感じた次第です。岩手県にも種々施策を講じているが、番組を通してわかったとおり、県民に余り周知されていないし、活用されていないなど、改善すべき点は多い。

番組に登場したアニキ・アネキの八木さん、北限の海女たちなど、活躍している若者たちをみて、何か元気づけられたような気がします。

総じて良い番組だったと思うが、ひとつだけ残念だったのは、若者向けということで深夜の時間帯の放送だったが、この番組の内容な幅広い年代に訴求する点があり、もう少し多くの方が視聴できる時間帯の放送が良かったと思われることです。次回には考慮いただければと思います。

東海林委員のレポートです。

本当に昨年度の就職難たるや、大変なものでした。だから高校生は公務員系の専門学校に多く来てくれて、おかげさまで私は昨年よりも忙しくなりました。そこだけ皮肉です。

しかし2年後、しっかりしたビジネス意識を持たせて世の中に送り出す責任が例年にも増してのしかかっています。

入学してきた途端に就職指導を始めていますが、最近の学生は付き合い幅が同世代に限られ、こじんまりした傾向は続いていますし、一部の気の合う仲間とだけつきあって、自分はコミュニケーション上手だと誤解しています。

だからこそ、『帰ってきたアニキーッ！』のような番組に出演することができた悩める相談者は幸福です。彼らにとって年齢層の違う的確なアドバイザーが必要だと日ごろから感じていました。

的確なアドバイスをくれるのは、実は学校の先生や政治家ではありません。色々な職種で、偉そうじゃなく、時に情けない人のほうがいい。そういう点で、この番組の鍵はアドバイザーの人選だと思うのですが、どうやって選んだのだろうと思うほど、ナイスな人選でした。

そして興味深かったのが、若者の悩み相談番組かと思いきや、しっかり地域活性化番組になっているところ。前回の『アニキーッ！』シリーズにはなかった葛巻町や久慈市の皆さんへのインタビューが効果的でした。

市役所の人も県庁の人も、「ホームページに載せてますよ」ってよくおっしゃるのですが、定期的に見ている人は私の周りには少ない。

今まで県庁のホームページにアクセスしたことのなかった私が、今回初めて『インターネット知事室』をのぞいて見たのですから、この効果は大きいはず。

ぜひこういう悩める若者相談の切り口で、岩手の34市町村民がシリーズで登場する地域振興を図る番組を期待します。

レポートは以上です。

○中村委員長

ありがとうございました。それでは、これで本日の議事を終了とさせていただきます。

○事務局

中村委員長、ありがとうございました。それではこれで番組審議会を閉会とさせていただきます。

なお、今回の審議会の模様は4月23日（土）朝4時30分から「めんこいテレビ批評」として放送いたします。

次回は5月11日（火）に開催となりますので、よろしくお願い致します。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成22年4月14日（水） 産経新聞 東北版

* 平成22年4月24日（土）午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ批評」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項
特になし